

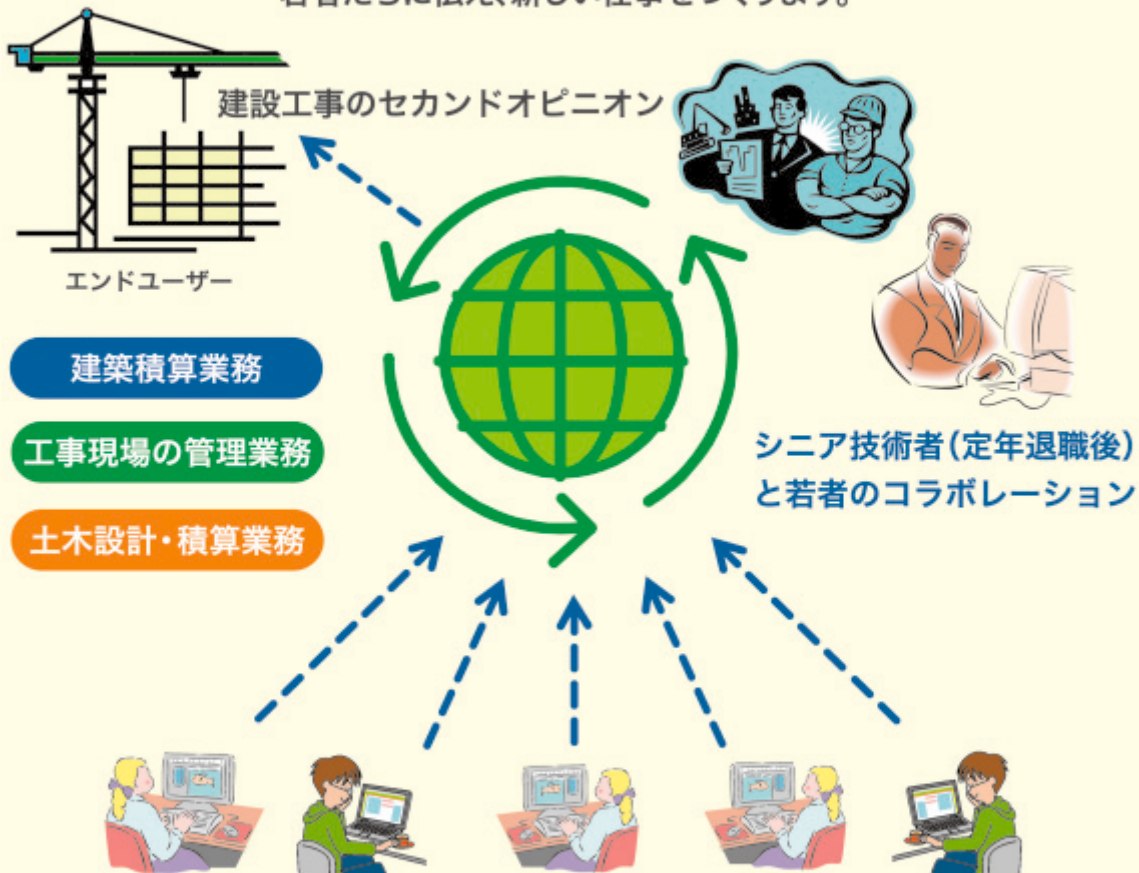
ORIC NEWS

翔飛

ひしように

今、新しいカ・タ・チ。

タッグスは、シニア技術者の豊富な経験と知識を
若者たちに伝え、新しい仕事をつくれます。



〒701-1221岡山市北区芳賀5303 株式会社タッグス

086-286-8155

tugs@oric.ne.jp

入居企業紹介

詳細は7ページをご覧ください

一本号の主な内容

巻頭言

研修・交流会活動

入居企業の活動・トピックス

入居企業紹介

イベント案内

No.29 (2010.7)

「ORICに期待する」

財団法人岡山県産業振興財団
理事長 島津 義昭



先般1990年以降何と14人目となる菅直人総理大臣が誕生し、新しい内閣ができた。菅首相は「財政再建」と「経済成長」を政策の柱にすえるということだ。

これは、日本の将来にとって議論の余地のない国家の存亡にかかわるテーマで掛声だけに終わらないようお願いしたい。

さて、100年に一度と言われたリーマンショックによる不況も回復基調にあるが、製造業については、2007年のピーク時の8～9割の水準にとどまっている。世界経済の回復に伴い我国でも大企業を中心に収益も急回復しているが、内容はリストラに負うところが大きく、不況のたびにコストカットを迫られる中小企業は仕事はあっても利益が出にくい構造になってきている。

暗い話で恐縮だが、日本の競争力が依然強いとされる中間財については、韓国、中国が次第に競争力をつけ国際分業が進展する中で我国の優位性が脅かされつつある。最近の日本は「技術で勝って事業で負ける」と言われるが、これは、国境を越えた工程分業が進む中できめ細かい技術に支えられた高品質の製品を製造する日本型ものづくり方式が見直しを迫られているのかもしれない。

しかしながら、もの作り分野の国際分業が進む中で日本が競争力を維持していくためには徹底したイ

ノベーションによる高度な部品、部材を供給するしかない。

日本は外国に比べベンチャーの誕生が少ないが、こういう状況だからこそ産学官あげてベンチャーの育成を図る環境づくりが求められる。岡山で代表的なベンチャー育成機関はORIC（岡山リサーチパークインキュベーションセンター）だが、私もその設立に携わった一人として大いに期待しているところである。入居費も安く優秀で熱心なコーディネータがおられ、平成15年の岡山県ベンチャービジネスプランコンテストで優秀賞に輝き、昨年ドイツにも事務所を構えるまでになった大学発ベンチャーの日本ステントテクノロジーもORICの入居者である。

産業振興財団としても毎年ビジネスプランコンテストをはじめ、ベンチャーや起業を志す人向けにプラン作り、経営ノウハウ、専門家の派遣、プレゼンテーション研修等幅広く支援している。加えて今年からは、専門家による目利き委員会を設け、優秀なプランには、研究開発から事業化、販路開拓まで一貫したサポートをするとともに、金融機関と連携し有利な条件での出資、融資が受けられるシステムを構築したいと考えている。

■ 平成22年4月度ORIC交流会及びセミナー

● 入居企業紹介

「介護の質の向上を目指して」 ウェルライフコミュニケーションズ（株）

同社は岡山県出身の山口社長が立ち上げたIT企業で本社は東京、開発拠点をORICと青島（中国）に置いています。同社長は1995年阪神淡路大震災を隣県で経験したことが原体験となり、共同創設者のSheng（中国系カナダ人）とともに、災害時でも患者データが必要に応じて利用できる情報システムサービスを将来実現する事を決意しました。



同社長は1999年に情報共有システムを核としたシステム事業を起業し、2005年にJasdaq上場を果たしていますが、昨年、医療福祉分野に特化した情報システムサービス会社として同社を起業し、2度目のIPOを目指しています。

現在作成中の介護事業所のシフト（勤務表）の作成支援システムを例に同社業務の紹介がありました。シフト作成では労働基準法、介護保険法、サービス提供体制による加算条件を遵守しなければなりません、制度が複雑なことに加え作成者の知識不足もあり、当局の指摘が多くなっています。本システムが条件チェックをすることで作成を容易にするとともに違反を未然に防ぎ、本来の介護業務にあてる時間を増やすことで介護の質の向上を目指しています。

● ゲスト機関紹介

「淳風会のめざすもの」 財団法人淳風会健康管理センター



同センターは昭和31年に設立された財団法人淳風会を母体にしていますが、総合労働衛生機関として活動する同センターについて榎本部長と脇本課長から紹介がありました。労働衛生機関の機能とは作業環境測定、健康診断、健康測定などを実施することで、作業環境・健康・作業の管理を通じて快適な職場、健康な心身を実現し、労働者の生活の質の向上と良質な労働力を確保することです。その一環として同センターは職場・地域・学校での健康診断と人間ドックをサービス業の立場で提供していますが、人間ドックでは多数のオプション検査も提供しています。例えば、遺伝子検査やサプリメントドックなどです。最近では生活習慣病予防のためのメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査が始まったように、体質改善の手助けやアンチエイジングについてのサービスも提供しています。また、レディースフロアを設けるなど利用しやすい施設を目指しています。

最近の健康志向もあり、会場から多数の質問が寄せられていました。

● ORICセミナー

「私の挑戦 ～ヤーコンで新産業創出を志し創業～」 三井ヘルプ（株）

三井ヘルプ株式会社社長の渡邊最昭様から、南米原産のヤーコン芋に魅せられての創業から今日までの、『ご苦労談・心に残ったこと』などのお話をいただきました。化学会社研究開発職の時代に「ヤーコン芋」の魅力に出会われ、55歳（定年前）に退職されてヤーコン芋をベースとした企業を創業されました。ヤーコンはフラクトオリゴ糖を豊富に含む健康食といわれていますが、種々の食品形態に加工すること、さらには事業化することに苦労されました。現在は「ジュース」「茶」「漬物」「酢」さらには「麺」などを開発され年商約5千万円に発展されました。その軌跡の支えには常に「多くの人との出会い」と「科学的データ蓄積と特許権利化へのこだわり」があったとの事でした。特に無臭にんにく農場を岡山県内で経営されているMさんとの出会いで得た多くの情報は、渡邊社長が会社経営する上での節目節目で重要な役割を演じたとのことでした。



今後岡山での活動を積極的に推進したいとの考えも表明されました。

●ORICセミナー

「私の挑戦」 四国独立リーグ創設者、元西武ライオンズ 石毛 宏典^{ひろみち}氏



5月度のセミナーは、元西武ライオンズの代表的選手で、四国独立リーグを創設し、現在もプロ野球を目指す若者を支援し続けている石毛宏典氏の単独講演会をテクノサポート岡山の大会議室で行いました。

講演の始めから、石毛さんは、意外なことをおっしゃいました。それは、少年のころから野球やプロへの憧れ、夢など無かったということです。また、周囲からも勉強や夢への導きが無かったとのことでした。

現役時代を振り返った石毛さんの講演は以下のように続きます。

『挫折はいっぱいしたが挫折と思っただけではない。挫折と思うのは、自分に「うぬぼれ」や「自信過剰」があるから。ただ、自分には力が無かった、相手が強かったのだと、素直に相手の力を認めてきた。いけないのは、やけになったり、いじけたりすること。挫折は何度でもしていい。自分以外の人の存在に気づく事が大事。チームの中、組織の中の存在としての自分に気づく事が必要。そのために大切なことは、きちんとした挨拶や返事ができること。それは一生ものの武器になる。子どもたちにも、そのように教えている。

自分の現役時代は結果を出せるかどうか不安で、野球を楽しむことなど出来なかった。不安を練習で紛らわせてきた。80%はしんどく、達成感が得られたのは20%くらいではないか。

四国独立リーグを設立したのは、アメリカへのコーチ留学が契機になった。

1996年ダイエーを退団してアメリカへ行った。ベースボールとは何か、アメリカの生活の中で見てみたいと思った。メジャーの仕組みを知りたいと思った。そのアメリカで、当地の独立リーグを目指した日本人の若者と出会った。その若者は、日本では大学野球や社会人野球に行けなかったが、どうしても野球を続けたかったので、アメリカに来て、独立リーグを目指しているとのことだった。

日本では高校野球から社会人の企業チームや大学野球に行ける人はわずかしかない。野球ができる環境が少なくなっている。若者のエネルギーの発散が出来なくなっている。

そこで、日本で次の2点を目指す独立リーグを設立しようと考えた。

1. 野球を続けたい若者の受け皿になる
2. 現役を引退した野球人のセカンドキャリアパスになる

現役を引退したプロ野球選手も、以前は野球解説などで食べて行けたが、いまはギャラも低下して、厳しい状況にある。四国独立リーグの収入は、リーグオフィシャルスポンサー、チームスポンサー、それに入場料で得ているが、これだけでは、運営は厳しい状況にある。

支援している愛媛マンダリンパイレーツでは、選手による地域貢献活動が奏功して県民の募金活動が起り、県としての出資も得られた。また、地元企業からの出資も得ることができた。しかし、地方経済は疲弊しており、厳しい状況にある。そのような状況の中、愛媛マンダリンパイレーツでは独自の収益事業を行うことを考えている。マンダリンパイレーツの選手が時間を作って農業に参入し、無農薬栽培などを行う。その活動で地域経済に貢献し、地域の活性化の一助とする。

今の厳しい状況の中で、地域も、人も、何かを変えないといけない。四国リーグの選手の中には、今までの自分を変えるのが怖い人もいる。しかし、我流の悪さは個性では無い。正しいやり方を身につけることが必要だ。そのような時、「なぜいまおまえはこのチームにいるのか。プロになれなかったからここにいるのだろう。プロになるためには、自分の悪いところを変えなければいけない」と指導する。

人生の志をどこに持つかで人は決まる。石毛個人としては、事業、経営は不得手でありながら、メンツが邪魔していた面があった。未熟であった。だが、未熟さに気がついた自分の行動で相手は変えられる。四国で分かったことは、47才にして夢が見つかったこと。

今思うと、夢があった方が元気を出せる。いつでも夢は持てるし、自分の夢をもつことは重要だ。

「これは無理だ」という思いに負けないことができる。』

このように講演を締めくくられました。

聴衆すべてが、その熱い思いに感動した1時間30分でした。

●バーベキュー交流会

初夏を思わせるような好天気のもとで、今年度春季バーベキュー大会が盛大に開かれました。特別セミナーでの石毛宏典（ひろみち）氏のエネルギーあふれる一時間半のご講演の後であっただけに、これに続く交流会もはじめから活気に満ちたものでありました。今回は石毛氏との名刺交換・交歓、ツーショット撮影、石毛野球塾支援カンパ、石毛氏の著書販売などに加え、“安東ダレ”の開発者である安東さんのご協力による津山ホルモンうどんのサービスもあり、イベント盛り沢山で会を大いに盛り上げました。昨年秋のバーベキュー大会では100名程度の参加者がありましたが、今回はこれを上回る122名の参加登録がORIC内外からありました。特にORIC外からの参加登録が79名であったことは、日ごろから念じている『ORICを介しての知と人の交流』が今回のバーベキュー大会を通してより具体的に場を提供できたことになり、大いに有意義な会となりました。



■ 平成22年6月度ORIC交流会及びセミナー

●入居企業紹介

「Rubyによるウェブシステム開発の事例紹介」 (株)クレオファガ



代表取締役の西尾周一郎氏より、近年注目が高まっているコンピューター言語「Ruby」を用いた同社の取組について、紹介がありました。

同社はWeb上での音楽投稿サイトを運営する傍ら、Webコンサルティング、Webシステム開発も展開しています。Rubyは、Webの記載に適しており、かつ開発効率も高い言語です。すでに、岡山県や徳島大学から受注したWebサイトやデータベースの開発をRubyで行ったり、研究会活動や、イベントでの事例発表なども行っているとのこと

でした。同社のWeb関連事業の発展が期待されます。

●ゲスト機関紹介

「未来へ！ 地域と歩む商工会」 岡山県商工会連合会

同連合会の経営力支援課長である吉野様より同会を中心とした商工会の取組について紹介がありました。商工会は、今年で50周年とのことですが、この間、一貫して地域の小規模、零細企業の経営支援を行ってきました。今年は商工会議所といっしょに、中小企業応援センター事業を運営し、経営に関する様々な専門家を中小企業に派遣することを通じて、高度で専門的な経営課題に対応する体制を整えているとのことでした。中小、零細企業の強い味方である商工会の活用を呼びかける紹介となりました。



●ORICセミナー

「島おこし日本代表を目指して」 陸奥記念館・なぎさ水族館・陸奥キャンプ場 統括マネージャー フリーペーパー「島スタイル」発行人 大野 圭司 氏

山口県の周防大島で“島おこし”に取り組む32歳の
大野圭司氏を講師に迎えてお話を伺いました。大野氏
は周防大島の最東端「油田地区」で生まれ育ちました。
小学5年生の頃、お祖父さんからテレビニュースを見るよ
うに言われ、出身地が日本一の高齢化地域であり、そ
の年齢別人口構成は日本全体の50年後を予想したそ
れとほぼ同じことを知りました。その現実の中で、15歳で
「島おこし」を自らの仕事にすることに決め、その夢を実
現するために「夢の逆算表」を作り、大学生、サラリー
マン生活を「逆算表」のとおりを送り、2004年にUターンしました。その後は「島おこし日本代表を目指して」、フ
リーペーパー「島スタイル」の発行、島再生のための起業家養成塾「島スクエア」の運営を行い、現在は入場
者の減少が続く周防大島町の三つの観光施設の指定管理者を引き受け、入場者増に挑戦しています。大野
氏の活動は10人を越える創業者を生み出し、「島おこし」は実現しつつあります。



また、30世帯を地域に呼び込み1世帯に二人の子どもと計算して、小学生を60人増やして大野氏の小学生
時代と同じ小学生数に戻す1億円（1世帯3百万円の年取確保）の産業創造を目指しています。参加者に「可
能性を伝えたい」とする大野氏のメッセージが強烈に届いたセミナーとなりました。

■ 第23回IT研究会「マイクロソフトのITベンチャー支援事業」



平成22年6月2日（水）に、マイクロソフト株式会社デ
ベロッパー&プラットフォーム統括本部ビジネスインキュベ
ーション担当の武田正樹氏にご講演いただきました。

「BizSpark」という事業では、ベンチャー企業や個人
事業主・起業家の人を対象に、OS、データベース、
Officeなどのソフトウェアを3年間無償提供するサービス
を行っています。また優れたITベンチャー企業を表彰す
る「Innovation Award」や自治体と協働で技術・マー
ケティングを支援する「IT Venture Program」の紹介
もありました。さらに「Action Pack」というサービスは、ベンチャー企業という制限はなくメンバー登録さえすれば
Windows7やOfficeのライセンスを安価に使用できる制度のようです。

マイクロソフトの最新技術動向として、クラウドコンピューティングの仕組みを通じて、パソコン・モバイル端末・
TVにソフトウェア機能を提供する「3スクリーン+クラウド」について説明いただきました。

ITベンチャー支援事業には参加条件がありますので、ご興味ある方はORICのスタッフへお問い合わせ
下さい。

■ (株) ナノ・キューブ・ジャパン村川技術奨励賞を受賞

入居中の(株) ナノ・キューブ・ジャパンは、第5回村川技術奨励賞を受賞しました。村川技術奨励賞は、(社) 山陽技術振興会の前会長である村川二郎氏が技術振興のために設けた「MKR技術奨励賞」が前身で、現在は、(社) 山陽技術振興会が、科学技術、産業の活性化・発展に資すると評価した技術成果を上げた個人、グループに授与されます。

今回、ナノ・キューブ・ジャパンの代表取締役 中崎義晃氏 同社常務取締役 谷澤祐二氏、岡山県工業技術センターの藤井英司氏の3名が連名で受賞されました。

入居企業紹介

株式会社タッグス



代表者 代表取締役 伊藤 典生
 連絡先 〒701-1221 岡山市北区芳賀5303 ORIC 201号室
 TEL/FAX 086-286-8155
 E-Mail tugs@oric.ne.jp

株式会社タッグス (Technical Upgading GroupS) は、中堅ゼネコンに40年近く在籍した技術者二人が独立して、共同で設立した建設コンサルタント会社です。

代表取締役の伊藤さんは、同社が建設業の定年退職を迎えた技術者の受け皿となり、彼らの持つ豊富な経験知識を再び社会に還元する場を提供する事が、起業の動機だったと話しています。建設業は経験工学と呼ぶのがふさわしく、技術を磨くために永い実務経験を必要とするからです。

伊藤社長によると、我が国の高度成長期に数々のインフラ整備を通して培ってきた建設業界の経験知識は、今や国内はもとより海外でも貴重な財産となっています。現在の発展途上国のインフラ整備には目を瞞るものがあり、そのため事業の柱の一つは、海外に据えています。

ところが眼を国内に転じると、建設業界は構造的な不況に曝され、ベテラン技術者でさえも離職を余儀なくされています。技術を持った人材はどの会社でも必要とされるものの、それら技術者を常備とする

余裕がないきびしい状況にあります。

一方、日本の社会は子育て中の女性、学生を受け入れる職場が少ない。彼らには本来の職分があり、それを疎かにはできないからです。しかし、何がしかの生活費が必要な時期でもあります。同社は、この若い世代グループと、定年退職技術者を結び付け、活かすことを、国内事業の柱として構築することを試みています。

建設業もIT技術を利用した生産性の向上が必要です。IT技術が不得手なベテラン技術者が持つ知識経験を活かせる技術分野である「積算」を、IT技術に習熟した若い人達に手伝って貰いながら、シニアと若人のコラボレーションでビジネスとして構築することを目指しています。

「今、新しいカタチを提案している」タッグスです。

■ オープンイノベーションビジネスマッチング in ORIC 開催

ORICでは、大阪ガス(株)、京都リサーチパーク(株)との共催で、標記のイベントを開催します。中小企業が自社の技術を大企業に売り込みに行くのではなく、大阪ガス社が商品開発の上で必要なニーズを広く公開して、中小企業の技術提案を求めるものです。中小企業としては、ターゲットを絞った商談が期待できます。

- ◆日時：7月30日13:00～18:30(懇親会：17:00～18:30)
- ◆場所：ORIC交流サロン(懇親会はテクノサポート岡山中内レストラン「花水木」)
- ◆費用：無料(懇親会は、会費3000円)
- ◆申込：名前、企業名(役職、所属)、所在地、電話番号、メールアドレス、懇親会参加の有無を記載して、info@oric.ne.jp宛にメールでお送り下さい。

■ しんきん合同ビジネス交流会

(財)岡山県産業振興財団、県内信用金庫、(株)日本政策金融公庫岡山支店等が合同で、それぞれの取引先を対象とした「ビジネス交流会」を開催いたします。

毎回およそ350社の参加があるこの交流会は、新たな取引先・ビジネスパートナーを探しているベンチャー企業や創業者の方々にとって絶好の商談会です。

- ◆日時：平成22年9月16日(木)10:00～16:00
- ◆場所：コンベックス岡山大・中・小展示場(岡山市大内田675)

入居者募集中!!

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料・空き室状況

(2010年7月現在)

施設区分	面積	使用料の月額 (減額後の使用料※)	部屋数	空き室数
研究室小	約25㎡	45,000円 (22,500円)	22	9
研究室大	約50㎡	88,000円 (44,000円)	30	9
試作開発室	約100㎡	175,000円 (87,500円)	6	4
創業準備室	5㎡/ブース	5,000円	6ブース	4ブース



研究室大



研究室小

※創業5年未満の会社及び個人は、入居後3年間は使用料が半額になります。

■ 次回募集

原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。次回は8月末までに事業計画書を提出された方を対象に、9月中に開催の予定です。(創業準備室の募集は随時受付けています。)詳しくはホームページをご覧ください。<http://www.oric.ne.jp>